※基本ログイン回数は、50回×契約月数×契約ID数です。
PC、タブレット、携帯から。最新ニュースと豊富なデータベースでライバルに差をつける!

2019年5月29日 海事新聞 6面

商船系高専5校 初の合同懇親会

卒業生ら210人出席 海事局長も来場

全船協

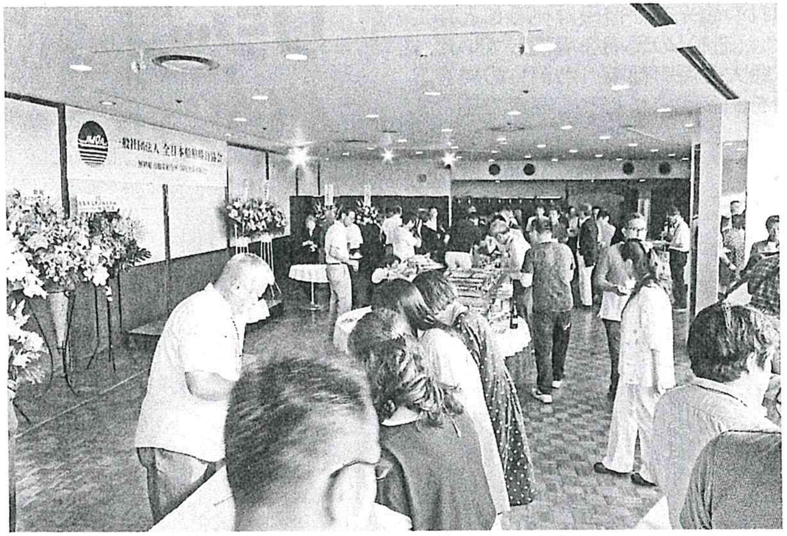
全日本船舶職員協会（全船協、酒迎和成会長）は26日、横浜市内で「全船協合同懇親会」を開いた。全国の商船系高等専門学校5校（富山高専、鳥羽商船高専、広島商船高専、大島商船高専、弓削商船高専）の卒業生ら約２１０人が集まり、旧交を温めた。

商船系高専5校の卒業生は毎年、山下公園前面水域で開催されている「横浜港カッターレース」に参加している。同日開かれたレース後に卒業生同士の親交を深めるとともに、船員教育の重要性を再確認することを目的に、今回初めて5校合同の懇親会を開いた。

懇親会で酒迎会長は、「全船協の前身である全国商船学校十一会が結成されて以来、5校を中心とした懇親会は初めて。限りある時間の中、楽しんでもらいたい」とあいさつ。続いて、自民党の赤池誠章参院議員が「党内で商船系高専の定員の絶対堅持と、海洋国家にふさわしい人材育成は必要だと訴えている。新学習指導要領では、小中高校の社会科に海事産業のことを盛り込んだ」と語り、海洋教育の重要性を強調した。

国土交通省の水嶋智海事局長は「皆さまの後輩たちも頑張っている。過去3年間の商船系高専卒業生の海上就職率は8割を超えている。内訳としては6割が内航、2割が外航である。今後も若い人たちが高専に入学してもらう必要がある」と訴えた。

この後、帆船日本丸記念財団の金近忠彦会長が乾杯の音頭を取り、歓談のひとときを過ごした。


一般社団法人 全日本船舶職員協会

㊤会場には多くの卒業生たちが集まった
㊦あいさつをする全船協の酒迎会長